



燃やして無病息災を祈る

鬼火たき

毎年恒例の鬼火たきが1月7日、市内各地で行われました。鬼火たきは、役目を終えたしめ縄や門松に火を放ち、1年間の無病息災や家内安全などを祈願するものです。

久保川志丸さん（調川・松山田）が昨年11月下旬に完成させた高さ約6.5m、幅5mの四角すいの大きな鬼小屋。年末年始には地域の交流の場にもなりました。

地区住民たちが持ち寄った正月飾りを鬼小屋の中に入れ、火を放つと、あっという間に燃え上がりました。

鬼火たきの残り火で焼いた餅を食べると1年健康で過ごせるといった言い伝えもあり、子どもたちは竹の先に刺した餅を焼き、美味しそうに頬張っていました。



出初式で防火・防災をPR

松浦市消防団

松浦市消防団（谷口哲男団長）の消防出初式が1月7日文化会館で開催されました。式典には、市内の消防団員など約450人が参加。永年勤続者、消防協力者、退団者の表彰などが行われました。谷口団長は「消防団は、火災をはじめとする災害から市民の生命・財産を守るという使命達成のため、日夜努力している。団員には、地域防災の要として所期の目的達成のため一層の努力を期待する」と訓示しました。式典後、消防車両で中央公園から庄野橋までパレードを行った後、志佐川に一齐放水し防火・防災に対する意識の啓発に努めました。



見事8本命中！大豊作の年に

百手講

志佐町庄野地区の百手講が1月8日、同地区内の王嶋神社で行われました。

この行事は、的に当たった矢の数で今年の豊凶を占うもので、市の無形民俗文化財に指定されています。

今年の射手は、崎田広則さんと本山孝太郎さん。烏帽子と狩衣姿で約10m離れた場所から直径約50mmの的にめがけて50本の矢を放ち、地区住民が見守る中、見事8本を命中させました。中川明宏宮司は「今年は8本も当たりました。末広がりですよ、大豊作になりそうです」と話していました。



いつまでもお元気で！

前田 クラさん 100歳のお誕生日

前田クラさん（福島・伊万里釜）が1月7日、100歳の誕生日を迎えました。前田さんは、福島町喜内瀬免に5人兄弟の3番目（長女）として出生。尋常小学校卒業後は子守奉公を勤め、19歳で結婚し、6人の子どもに恵まれました。家業の農業の傍ら、籠を編んだり、読書を楽しまれていました。人柄が良く、周りの人からは「おクラさん」「おクラおばさん」と呼ばれ親しまれています。2年前から特別養護老人ホームいろは島荘に入所されており、この日は家族やスタッフに祝福され、100歳の誕生日を過ごされました。



いつまでもお元気で！

福田 ミギハさん 100歳のお誕生日

福田ミギハさん（御厨・中野）が1月11日、100歳の誕生日を迎えました。

福田さんは、御厨町中野免で2人姉妹の1番目（長女）として出生。結婚後は2男1女に恵まれました。家業の農業のほか、手先が器用で、よく人から頼まれ和裁を行っていました。また、パッチワークや公民館活動で短歌を詠むことも楽しまれていましたが、平成26年からは春風荘に入所されています。

この日は、家族やスタッフ、入所の人たちに祝福され、お祝いの言葉と花束を受け取りました。



いつまでもお元気で！

池田 ハツエさん 100歳のお誕生日

池田ハツエさん（御厨・木場）が1月10日、100歳の誕生日を迎えました。

池田さんは、田平町で8人兄弟の1番目（長女）として出生。御厨町木場の農家へ嫁ぎ1男1女に恵まれました。農業の傍ら卵売りをする等の働き者。編み物が得意で、よく子どもや孫にセーターを編んだりしていました。昨年からは春風荘に入所されていますが、今でも編み物が日課となっています。

この日は、家族や入所者らからたくさんの祝福を受け、笑顔を見せていました。



力走！福島路を駆け抜ける

福島町一周駅伝大会

伝統の第66回福島町一周駅伝大会が1月12日に開催され、8区間23.97*で健脚を競いました。

今大会には、市内外から18チームが参加。塩浜公園ふれあい広場前をスタートし、選手たちは沿道の声援を受けながらゴールの福島公民館を目指し、タスキをつなぎました。上位の結果は、次のとおりです。

【町内の部】

- ①日の浦 1時間37分27秒
- ②鍋串 1時間38分27秒
- ③厩壁A 1時間39分45秒

【オープンの部】

- ①有田工業高校
- ②松浦消防
- ③伊万里実業高校



経箱をくぐり健康を祈願

大般若

大般若の経典が入った箱の下をくぐって1年間の無病息災を祈願する「大般若」が、志佐地区と福島地区で行われました。江戸時代、この地方に疫病が流行したとき、大般若経を祈とうして回り疫病が治まったことが始まりとされています。

志佐町里地区では1月11日、還暦と厄入りを迎えた地区住民と役員らが重さ約10*の経典が入った箱を交代で担ぎ、地区内約200戸を「だいはんにゃー」と掛け声をかけながら回りました。地区の住民たちは、経箱の下をくぐって1年間の無病息災を願いました。

